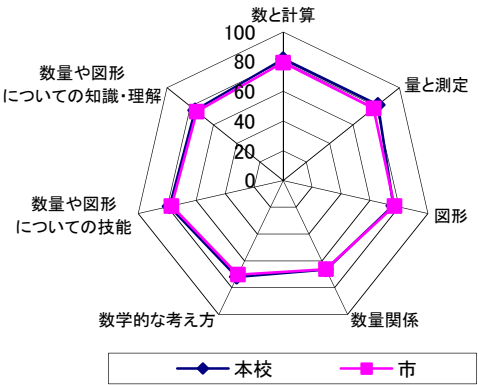


宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	81.7	79.4
	量と測定	81.5	77.9
	図形	76.0	76.8
	数量関係	66.5	66.2
観点別	数学的な考え方	72.0	70.2
	数量や図形についての技能	78.4	77.1
	数量や図形についての知識・理解	75.8	74.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・宇都宮市の平均正答率よりもやや高い。特に3桁×2桁の計算をしたり、同分母の真分数同士のたし算をしたり、数直線上の分数を正しく読んだりする力は十分定着していると言える。反面、3桁÷2桁の余りのある計算や概数の表し方などについては、市の平均よりもやや下回っており、定着が十分とは言えない。	・整数や小数、分数の四則計算については、引き続き授業や朝の学習、家庭学習において繰り返し練習させ、力の定着を図る。がい数については、「～の位までのがい数」「～の位を四捨五入」「上から〇けたのがい数」などの問いに対し、それぞれどの位に着目すればよいかを確認し、四捨五入による正しい数の処理の仕方を復習させる。
量と測定	・宇都宮市の平均正答率よりもやや高い。特に、分度器を使って角度を測ることや180度より大きい角の測り方についてはおおむね定着していると言える。複合図形の面積を求める式を選ぶ問題の正答率も、市の平均よりはやや高いが、75％に満たず、十分定着しているとは言えない。	・分度器を使って角度を測ったり、作図をさせたりしていっそうの力の定着を図る。また、複合図形の求積では、求め方が多様にあることを理解させるとともに、それぞれの求め方を図を使って分かりやすく整理し、立式させるようにする。
図形	・宇都宮市の平均正答率よりもやや低い。二等辺三角形の作図についてはおおむね身に付いていると言える。しかし、球の半径を用いて箱の辺の長さを求める問題の正答率は、他の問題に比べて低かった。また、円の半径についても理解が不十分で、半径を使ってかいた三角形が二等辺三角形だと理解できないための誤答が目立った。	・指定された条件の三角形を、多様な方法でかく活動を通していっそうの力の定着を図る。また、円や球の直径・半径について、その意味や性質を確認させ、それを使った問題に数多く取り組ませる。
数量関係	・宇都宮市の平均正答率とほぼ同程度である。四則計算の順序や分配法則についての理解が不十分である。また、折れ線グラフの任意の点を読み取ることはできるが、数値の変化を読み取ったり折れ線グラフの特徴や有用性を理解したりする力は十分とは言えない。さらに二次元表の読み方についても定着が不十分である。	・計算の優先順位について確認させ、反復練習を行う。また、分配法則については、その意味を図によって表し理解を図る。さらに、折れ線グラフについては、変わり方の大きさが線の傾きに表れていることをおさえるとともに、いろいろなグラフの特徴について確認させる。二次元表についても、その構造を確認し読み取らせる練習を繰り返す行う。